

平成23年度国際交流委員会主催特別講演会

The Changing Nature of Nursing Work: Implications for Quality Care

「変わりつつある看護の仕事：質の高いケアを提供するために」

日 時：平成23年10月14日（金） 14：25～15：55

場 所：日本赤十字広島看護大学 ソフィアホール

講 師：Dr. Andrea Baumann

（アンドレア・バーマン先生 マクマスター大学）

通 訳：小泉直子

本年度の特別講演会は、The Changing Nature of Nursing Work: Implications for Quality Care と題して、カナダのハミルトン市に所在するマクマスター大学Faculty of Health SciencesのAssociate Vice-Presidentであるアンドレア・バーマン博士をお迎えし、10月14日14：25から約1時間半、ソフィアホールにて実施され、160人の学生が聴講した。本講演会の重要な要点は、「医療を取り巻く状況が急激に変化する中、医療従事者がいかに環境の変化に迅速に対応し、よりよい看護を提供するか」であった。

マクマスター大学はカナダ・オンタリオ州ハミルトンに所在する総合大学であり、看護学部の学生は2,000人、看護専攻の大学院生は200人という大規模校である。ハミルトンには大小様々な病院が所在する。この地域で数年前、院内感染で多数の患者が死亡し、深刻な問題となった。このように危機も多様化しているだけでなく、情報化社会となり様々な情報があふれる中、看護師の仕事も大きく変容している。看護師は正しい情報を選び、適切に状況を判断して、柔軟かつ迅速にケアを提供することが必要となっている。

バーマン博士は学生との対話を重視し、様々な質問を学生に投げかけた。看護の現場がいかに変化しているかについては、たとえば情報源にしても、従来の新聞や書物、論文だけでなく、テレビやインターネット、ツイッター、メールなど、膨大な情報があふれるようになったこと、次々に新たな耐性菌が出現し、院内感染が深刻な問題となっていることな

どが指摘された。たとえば日本では東日本大震災の際、この異常事態に対して多くの判断や処置が必要だったはずであり、医療従事者が懸命に対応したことに敬意を表すと述べた。医療現場で適切かつ柔軟に対応するために、博士は「情報が常に変化していることを認識すること」「情報の質を評価すること」の重要性を強調した。

博士は、より具体的に81歳の女性糖尿病患者を症例にあげて、現在の医療のあり方について言及した。従来の医療現場では、患者の病歴に基づき、患者の症状の改善と安定を図るために、医薬品の処方、治療、糖尿病についての教育、患者の精神的なケアなどが提供され、患者の回復と退院を目指すというように、患者の症状に合わせた医療が行われてきた。ところが最近、MRSA、クロストリジウム・ディフシル、バンコマイシン耐性球菌などの院内感染が問題化している。特にクロストリジウム・ディフシルは患者の死亡につながる深刻な問題である。そのために感染症の制御も重要となり、入院時の検査・データの入力・病室の決定・記録・監査・報告なども医療現場で重要な業務となっている。このように、患者の症状に対するケアと同時に、感染症等のケアもしなければならず、患者のケアは複雑化し、看護師の負担も増えている。そのため、大量の情報から重要な情報を把握し、問題点を明らかにし、より多くの判断をより迅速に行い、優先度の高いことから効果的に介入することが必要となっている。

直接ケアを提供するだけでなく、ケア・プランを

立て、ケアのコーディネートをし、判断を下し、評価し、変化を記録し伝えることも、看護師の重要な役割である。膨大な情報から重要な情報を判断するためには、情報を評価するガイドラインや臨床のガイドライン、エビデンスに基づいた判断、ベスト・プラクティスのガイドラインなどが参考となる。問題を整理し、複雑さを減らすこと、問題を細分化すること、情報と事実の収集、多職種の人々とのチームワークが重要である。また論文やデータだけでなく、患者や人から聞く話や、看護師の勘も重要であり、異常に気づいたときには、勇気を持って発言しなければならない。カナダでは院内感染の報告義務があり、基準が制定されている。

医療現場で看護師は、理学療法士や医師だけでなく様々な職種の人々と協力してケアを提供している。看護師の中から感染のコントロールを専門とす

る感染制御専門家（ICP：infection control practitioner）も生まれている。看護師は、自身の役割と他の人々の役割を認識し、多角的に情報を収集した上で、看護師としての介入を判断しなければならない。

博士はまとめとして、1) ケアがより複雑になっていること、2) 情報をすばやく収集し評価することが重要、3) ベスト・プラクティスを採り入れた標準を作り、複雑さを軽減して時間の無駄を省くこと、4) 多職種の役割を理解し、緊密な連携をとりながら、チーム医療を実践することを強調した。

最後に博士は、質疑応答の中で、医療の現場が急速に変わりつつある中、大学で新しい知識を学んだ若い世代の人々に大いに期待すると述べて締めくくった。